ONKYO®

パワーアンプ

M-5000R

取扱説明書

主な特長

- ·各チャンネル 150W 4Ω（20Hz（ヘルツ）〜 20,000Hz）全高調波歪率 0.05%以下
- ·再生周波数の広帯域化を図る A WRAT（Advanced Wide Range Amplifier Technology）搭載
- ·New（ニュー） circuit（サーキット） technology（テクノロジー） 搭載
- ·３段インバーテッドダーリントン回路を採用
- ·左右チャンネルで対称の内部レイアウト
- ·２つのトロイダルタイプのトランスに加え、サブトランスを採用した強力な電源回路
- ·４つの大型音質コンデンサを採用
- ·トップパネル、フロントパネルおよびサイドパネルに独立した振動対策用アルミパネルを採用
- ·振動対策のためのサイドパネルマウンティング構造を採用
- ·バイアンプ接続およびブリッジ接続対応
- ·ブリッジ接続では XLR 入力によるモノラルアンプ構成
- ·真鍮製の金メッキ音声端子装備
- ·金メッキ大型スピーカー端子装備
- ·12V トリガー入出力端子装備
- ·高速反応の大型レベルメーター採用

テクノロジー

A WRAT（Advanced Wide Range Amplifier Technology）

M-5000R は、オンキヨーが独自に開発したさまざまなテクノロジーを搭載し、最適なオーディオパフォーマンスを実現しています。

1. New circuit technology（ニュー サーキット テクノロジー）

デジタル音源の登場によりオーディオで重要な SN 比の数値は飛躍的に向上しました。
しかし、レコードに代表されるアナログ音源などは聴感上の SN においてデジタル音源と比べても決して劣っていないという現実は良く知られています。
一般的に SN 比とは音の出ている時と出ていない時の比であり、音の出ている時に発生するノイズは考慮されておりません。
オンキヨーはこの音の出ている時の SN（動的 SN）に古くから着目し、研究を重ねてきました。そして可聴帯域外ノイズが聞こえるメカニズムにより、音楽再生時の動的 SN が悪化し、聴感上の SN も悪化することを突き止めました。
人の耳では 20kHz 以上の音が聞こえませんが、それ以上の周波数でも異なる信号が重なるとビート（唸り）として聞くことができることは良く知られています。
アナログ音源時代は可聴帯域外には大きな信号は入っていませんでした。しかしデジタル音源になることで、可聴帯域をこえる録音が可能となり、発生したビートが可聴帯域内に入り込んで来ているのです。
New circuit technology（ニュー サーキット テクノロジー）は高周波で発生するビートを可聴帯域内に入らないようにした新しい考え方を取り入れています。

2. 低負帰還設計

アンプの特性を改善する NFB（負帰還）は多くのアンプで用いられる手法ですが、NFB によって改善される性能は静的な状態であって、瞬時に変化する音楽信号（アタック部分など）では NFB では特性を改善できずアンプの裸特性が大きく影響しています。
オンキヨーでは少量の NFB によって特性改善をはかり、音楽信号にとって大切な NFB を掛けていない状態でのアンプ特性を改善する設計を行っています。

3. 接地ループ閉回路

M-5000R では各回路に独立した閉回路設計を採用し、個別に各回路を電源に接続しています。
これによって、各回路が他の回路からの影響を受けにくくし、接地電位に歪みが発生しないようにすることができます。

4. HICC（瞬間大電流機能）

HICC はアンプをスピーカーの反射エネルギーを除去し、瞬時に次の信号を送ることができます。
また、これを実現するのに必要とされる大電流で、スピーカーのインピーダンスや変化を処理する必要もあります。
スピーカーでは、周波数によってショートに近い状態が発生するのでショートに近い状態でも、電流を流せる能力が必要です。

3 段インバーテッドダーリントン回路を採用した 4 パラプッシュプル式増幅設計

オンキヨー伝統の３段インバーテッドダーリントン回路はアンプ出力段の裸歪みを低減する優れた手法ですが、発振を起こしやすく実装では高度な技術を要します。
M-5000R ではこれまでのノウハウを元にチャンネルごとに 8 個の大型トランジスタを搭載した「４パラプッシュプル設計」を実装し、アンプの強力なドライブ能力を実現しました。

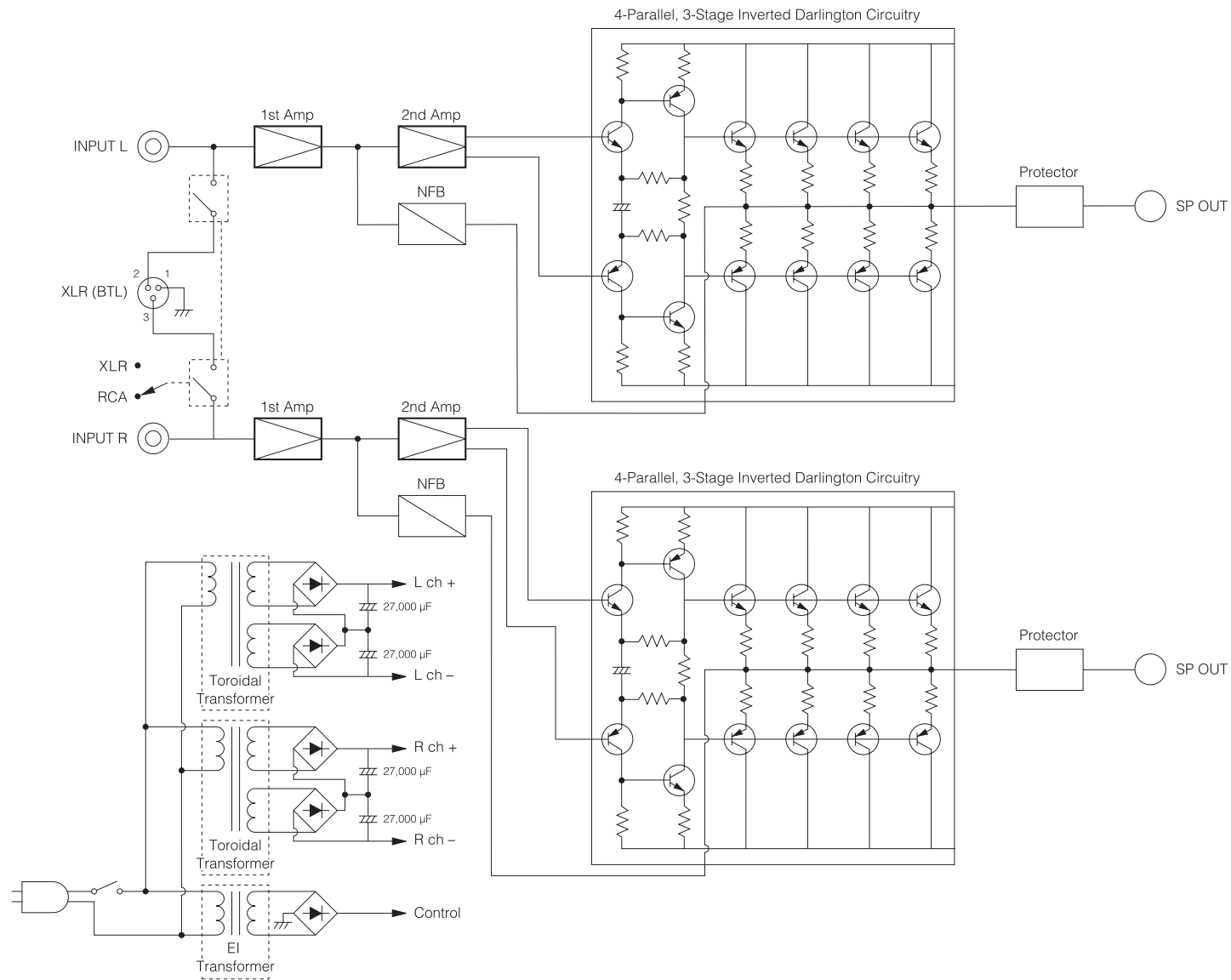
左右対称のツインモノラル構造

M-5000R の左チャンネルと右チャンネルの電源は対称的に配置されています。
どちらのチャンネルも同じ電気的設計と構造設計をしており、信号経路の長さも統一されています。したがって、ステレオ再生時の誤差を最小限に抑えることができます。

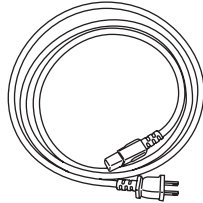
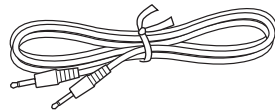
サイドパネルマウンティング構造

M-5000R の基板は直接底板に接続せず、内部の支柱で衝撃を吸収し、前面、側面、後面のパネルに取り付けています。
このような構造を採用することによって、シャーシの振動が基板に悪影響を与えないようにしています。

ブロックダイアグラム

4-Parallel, 3-Stage Inverted Darlington Circuitry
1st Amp
2nd Amp
INPUT L
NFB
Protector
SP OUT
XLR (BTL)
2
1
3
XLR
RCA
1st Amp
2nd Amp
INPUT R
NFB
4-Parallel, 3-Stage Inverted Darlington Circuitry
Protector
SP OUT
L ch +
27,000 μF
27,000 μF
L ch –
Toroidal
Transformer
R ch +
27,000 μF
27,000 μF
R ch –
Toroidal
Transformer
Control
EI
Transformer

付属品

ご使用の前に、次の付属品がそろっていることをお確かめください。

電源コード（2m）. . . . .（1）

モノラルミニプラグ付ケーブル（1.8m）. . . . .（1）
（12V トリガー端子の接続に使用します。）

取扱説明書（本書）. . . . .（1）
保証書. . . . .（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内. . . . .（1）
ユーザー登録カード. . . . .（1）

* カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

目次

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

- 本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。
- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
- （本機の天面から 30cm 以上、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

⚠警告

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
本機の通風孔から異物を入れない
本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

接触禁止

感電の原因になることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

注意

・本機通風孔付近は放熱のため、高温になることがあります。電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

・突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
・始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

⚠注意

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■持ち運びは 2 人以上で行なう

必ずする

本機は非常に重いので、持ち運びは 2 人以上で行なってください。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

・表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
　化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
・シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

使用上のご注意

本機をお使いになる前に、「安全上のご注意」（7 ～ 9 ページ）とあわせて、下記の注意事項もよくお読みください。

通風について

使用中、本機はかなり熱くなります。過度な温度上昇は、アンプの性能を損なうことがあります。
過度な温度上昇を防止するには、空気の流れを良くして、放熱をすることが大切です。

お知らせ

- 本機を空気がこもりがちな狭いラックや、押し入れには入れないでください。
- 本機を暖房機などの熱源から離して設置してください。
- 本機の上下に他の機器等を重ねて置かないでください。
- 本機のカバーには換気用の通風孔があり、内部の温度上昇を防ぐように設計されています。これらの通風孔は絶対にふさがないでください。

棚に収納する場合は、棚の背面の上下に換気口を開け、通風をよくするか、ファンを使って空気を循環させてください。目安としては、音声信号入力待ちの状態にあるときに本機の上部が熱すぎて触れることができなければ、換気を改善する必要があります。

設置する場所と空間

本機を設置する場所の床や、特に棚やラックに収納する場合は、重さに耐えうるだけの強度があることを確認してから設置してください。
本機の背面には、電源コードをはじめ、その他の接続ケーブルのための適切な空間が必要です。これらのコードやケーブル類を無理に折り曲げたり、力をかけたりせずにすべてのケーブルを収納するには、10cm 以上の空間が必要です。
本機をテレビやラジオの近くに設置しないでください。テレビやラジオに雑音や映像の乱れが生じることがあります。

電源コードについて

付属の電源コード以外は使用しないでください。付属の電源コードは本機のために特別に設計されたものですので、他の機器には使用しないでください。
壁コンセント以外のコンセントには接続しないでください。

接続するスピーカーについて

スピーカーはインピーダンスが 4Ω 以上のものを接続してください。4Ω 未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
スピーカーに添付の取扱説明書をご覧ください。
必ず、プラス（+）端子はプラス（+）端子と、マイナス（—）端子はマイナス（—）端子と接続するようにしてください。間違って接続すると、逆位相になり再生音が不自然になります。
スピーカーコードが、必要以上に長かったり細かったりすると、音質に影響を与えることがあります。そのようなコードは使用しないでください。
プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
コードの金属芯を本機の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。
スピーカー端子に 2 本以上のコードを接続しないでください。故障の原因になります。
1 台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。

バナナプラグのご使用について
スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。
スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入しないでください。

お手入れ

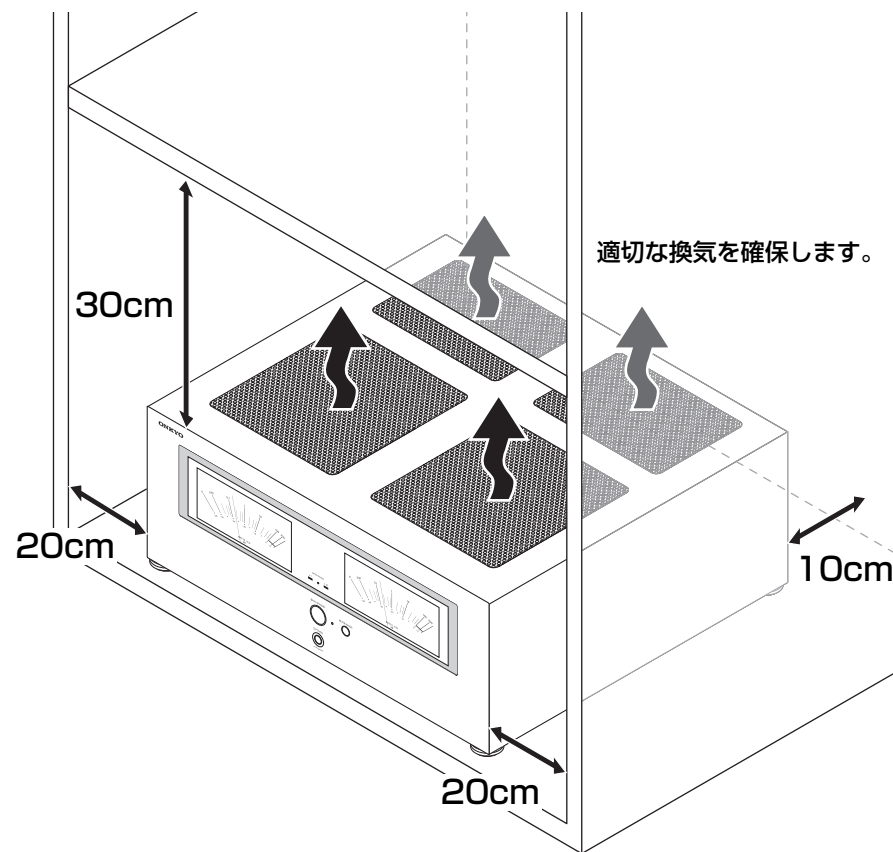
フロントパネル、リアパネル、カバーは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと、乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなどは使用しないでください。傷がついたり、文字が消えたりすることがあります。
引火性または可燃性の洗剤も使用しないでください。
また、リアパネルの入出力端子のお手入れに、接点復活剤は使用しないでください。樹脂が劣化することがあります。
工場出荷時はメーター部に静電処理されていますが、布などで強く拭くとメーターがふれる場合があります。

その他

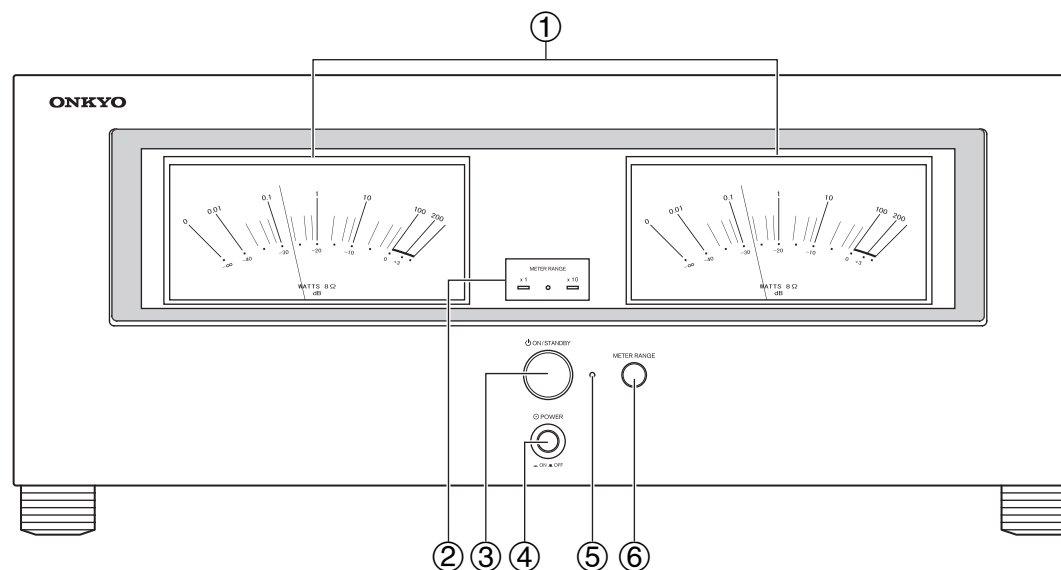
次のことは絶対にしないでください。
- 放送設備用や楽器用のアンプとしては使用しないでください。
- 本機の電源として、発電機、DC/AC コンバーター、AC/AC コンバーターやトランスを使わないでください。
- 入力端子または入力ケーブルの先端を指で触れて、通電を確かめるようなことは絶対にしないでください。感電の危険性だけでなく、スピーカーの故障の原因となります。
- 出力端子どうしや、出力端子とリアパネルをショートさせないでください。
- カバーを外さないでください。
- 小さな子どもの手の届く所に設置しないでください。

雷が鳴ったら

電源プラグやカバー、また本機に接続している機器類に触れないでください。

本機を設置する

頑丈な棚やラックに設置してください。本機の重量が均等に 4 つの足に分散されるように配置してください。強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。パワーアンプは、高い変換効率を持つように設計されていますが、その温度は他のオーディオ機器よりも高くなります。適切な換気を確保して、放熱を妨げないようにしてください。

本機について

前面パネル

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **パワーメーター（➔ 20）**
出力レベルを表示します。

② **METER RANGE** LED（➔ 20）
パワーメーターレンジが x1 または x10 の場合に **x1** LED または **x10** LED が点灯します。両方消灯している場合は、真ん中の METER OFF LED が点灯します。
ASb（Auto Standby）設定（➔ **20**）を ON に設定している場合に、自動的にスタンバイ状態になる直前の 30 秒間、METER OFF LED が点滅します。

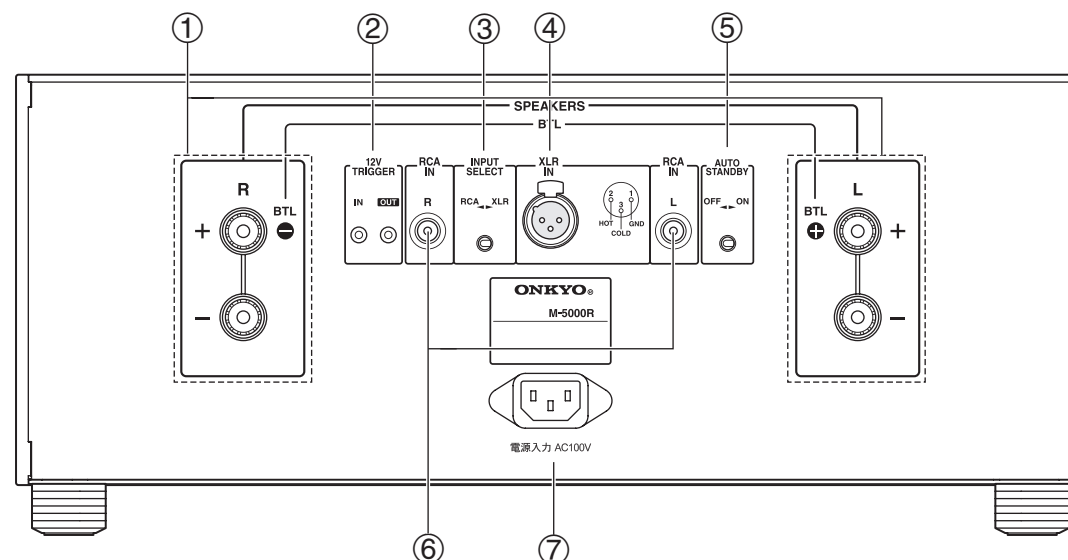
③ **ON/STANDBY ボタン**（➔ 19）
電源のオン / スタンバイを切り換えます。

④ **POWER スイッチ**（➔ 19）
本機の主電源を入 / 切します。

⑤ STANDBY LED（➔ 19）
スタンバイ状態のときに点灯します。
保護回路が動作している場合は点滅します。

⑥ **METER RANGE ボタン**（➔ 20）
メーターレンジを切り換えます：
x1、x10 またはオフ。

後面パネル

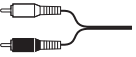
① **SPEAKERS（スピーカー） L/R 端子**

② **12 V（ボルト） TRIGGER（トリガー） IN（イン）/OUT（アウト） 端子**
他機の 12V トリガー出力端子と接続し、本機をコントロールします。接続した他機の電源オン / スタンバイに連動して本機の電源をオン / スタンバイします。

③ **INPUT（インプット） SELECT（セレクト） スイッチ**
RCA IN と **XLR IN** の音声入力端子を切り換えます。
左側に切り換えると、RCA 入力が選択されます。右側に切り換えると、バランス入力が選択されます。

④ **XLR IN 端子**
バランス出力端子を持つプリアンプを接続します。

XLR 端子と RCA 端子に同時に接続しないでください。本機が故障する原因になります。

⑤ **AUTO（オート） STANDBY（スタンバイ） スイッチ**
本機後面パネルの **AUTO STANDBY** スイッチで、機能の ON（オン）/OFF（オフ） を設定することができます。
自動スタンバイ機能が ON のとき、入力信号がない状態で本機を 3 時間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態になります。この場合、本機に信号を入力しても、電源は自動的に入りません。再び本体の電源を入れるには、**ON/STANDBY** ボタンを押してください。

⑥ **RCA IN L/R 端子**
RCA 出力端子を持つプリアンプを接続します。

⑦ **電源入力 AC100V 端子**
付属の電源コードを接続します。

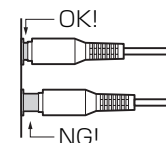
接続については「接続をする」をご覧ください（➔ 14 ～ 18）。

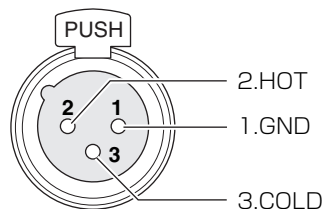
接続をする

接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

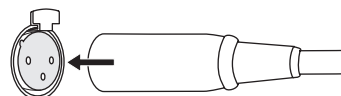
ケーブル		端子	説明
バランス型 XLR ケーブル		XLR IN	アナログ音声信号を伝送します。バランスタイプの XLR ケーブルは長いケーブル引き回しでもノイズを最小限に抑えるため長距離の伝送に適しています。 **XLR 端子と RCA 端子に同時に接続しないでください。本機が故障する原因になります。**
オーディオ用 ピンケーブル		L 白 R 赤	アナログ音声信号を伝送します。
モノラルケーブル		12V TRIGGER	付属の 3.5mm モノラルケーブルを使って、他機の 12V トリガー出力端子と接続します（市販のケーブルもご利用いただけます）。 3.5mm モノラルケーブルの先端の極性は右記のとおりです – + 12V 先端の極性：＋

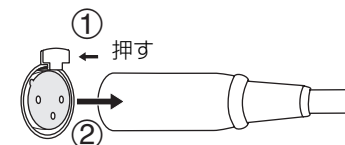
お知らせ

- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります）。
- ケーブル同士の接触を防ぐため、音声ケーブルや電源・スピーカーケーブルが接近しないようにしてください。

XLR 入力端子について

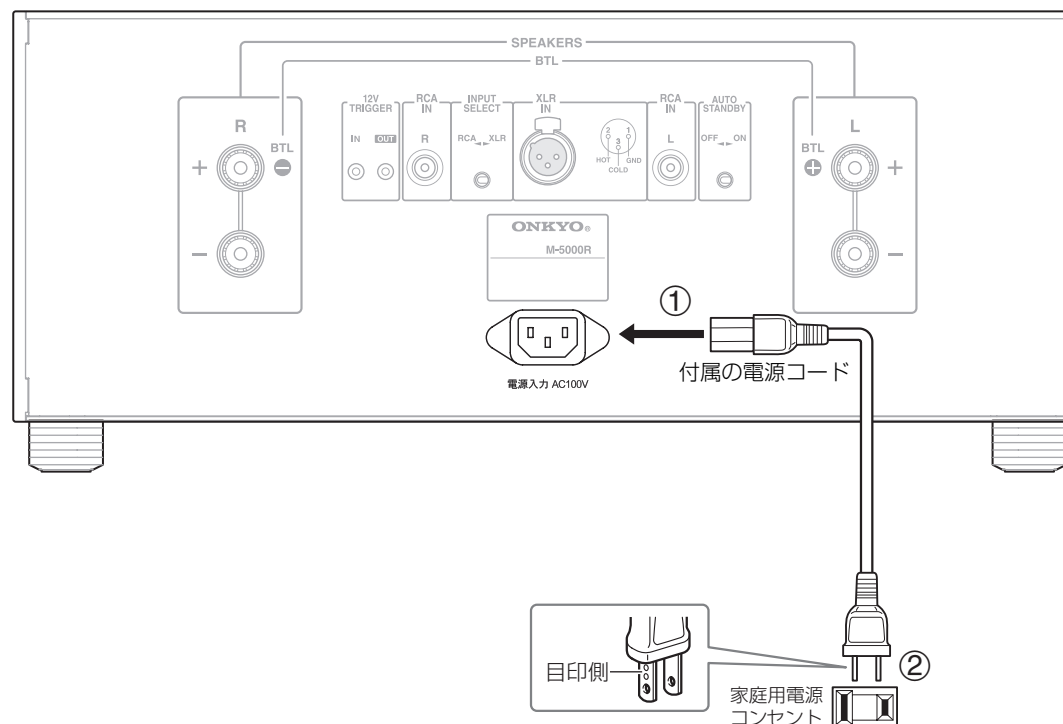
高品質なサウンド出力のため AV コントローラーまたはコントロールアンプを XLR 接続します。

グランド端子コネクター：シャーシ接地
ピン配列は上記のとおりです。（AES 規格準拠）接続時は、AV コントローラーの取扱説明書をご覧になり、出力端子のピン割り当てが本機に対応していることをご確認ください。オンキヨー製 AV コントローラー PR-SC5508 は対応しています。

XLR ケーブルを接続する

ピンの位置を合わせてカチッと音がするまで端子を差し込みます。ケーブルを軽く引っ張り、完全に接続されているかどうか確認してください。

XLR ケーブルをはずす

コネクターのボタンを押しながら、矢印の方向にケーブルを引っ張ります。

お知らせ

- バランス接続にするときは、**INPUT SELECT**（インプット セレクト）スイッチを右側（バランス入力端子側）に切り換え、市販の XLR タイプのバランスケーブルを使って、AV コントローラーと本機を接続します。
- RCA 入力端子（RCA タイプ）には、何も接続しないでください。

電源コードを接続する

1 本機の主電源が切れていることを確認します。

2 すべての接続が完了していることを確認します。

3 付属の電源コードを、本機の**電源入力 AC100V** 端子に接続します。

4 電源コードを家庭用壁電源コンセントに接続します。

より良い音で聴いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を、家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ヒント

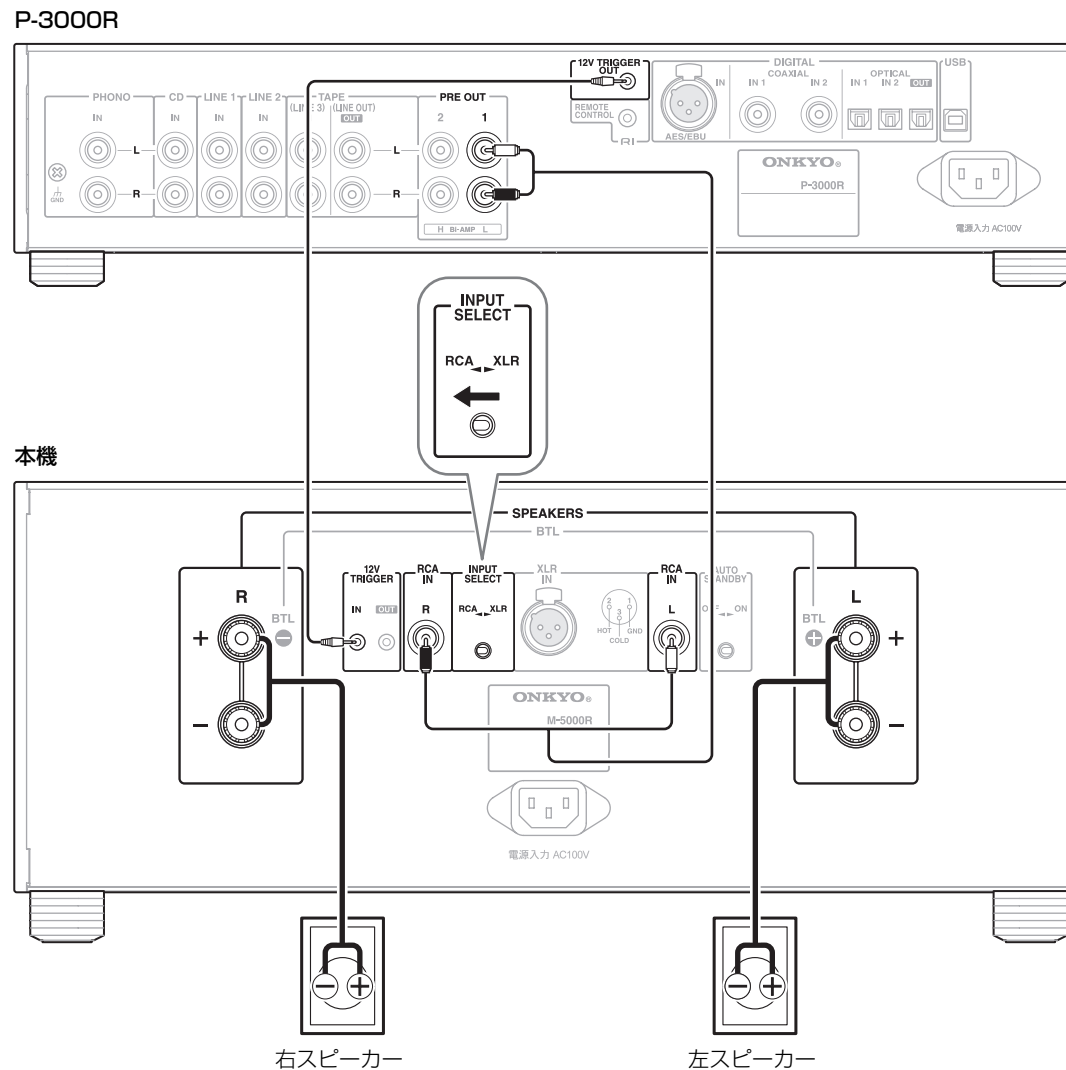
· ノイズを抑えるため、信号ケーブルと電源ケーブルは一緒に束ねず、お互いに離して配線してください。

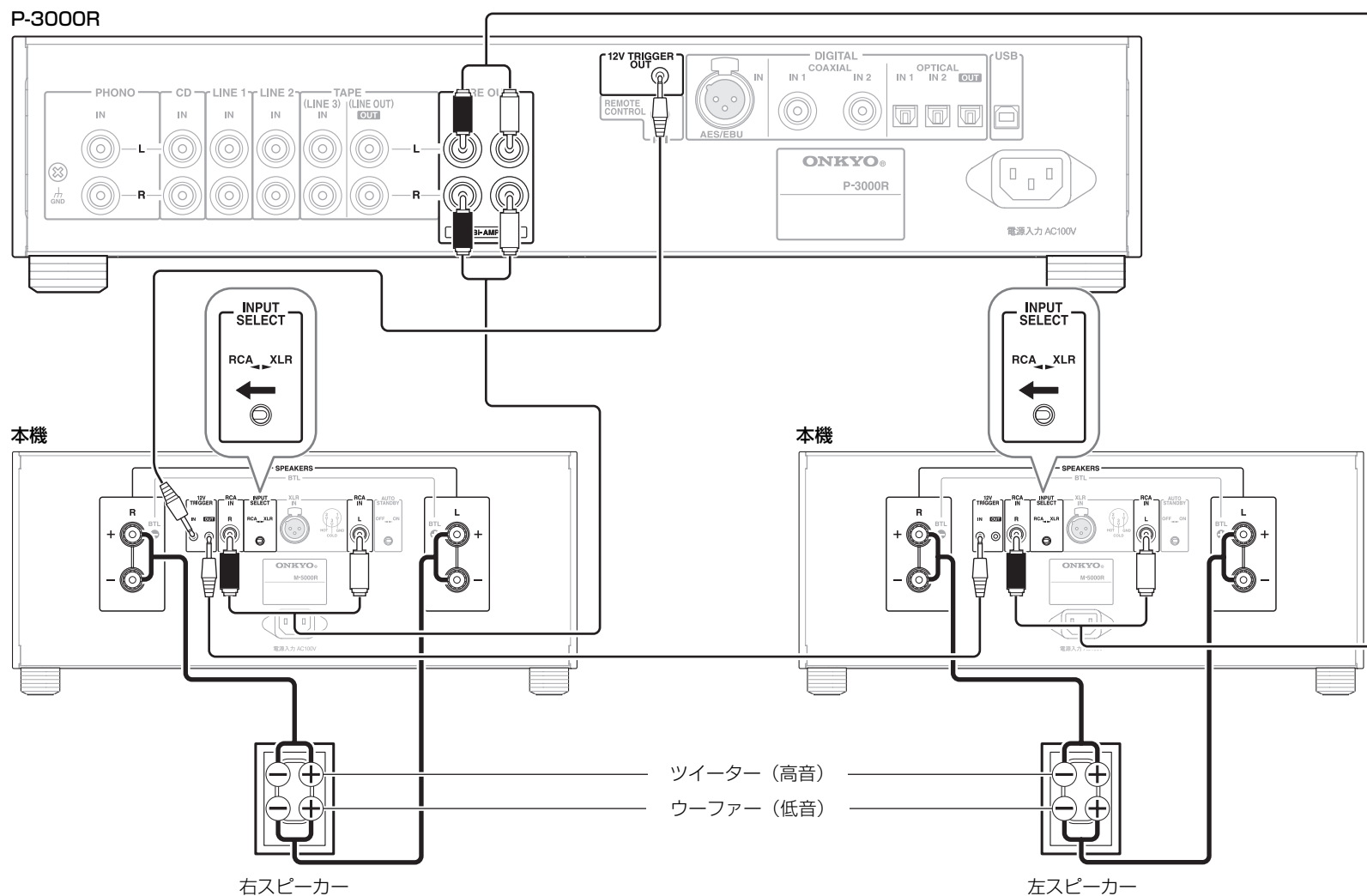
お知らせ

· **家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、電源入力 AC100V 端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。**電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
· 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。
· 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
· 電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源をオフにしてから抜いてください。

プリアンプを接続する

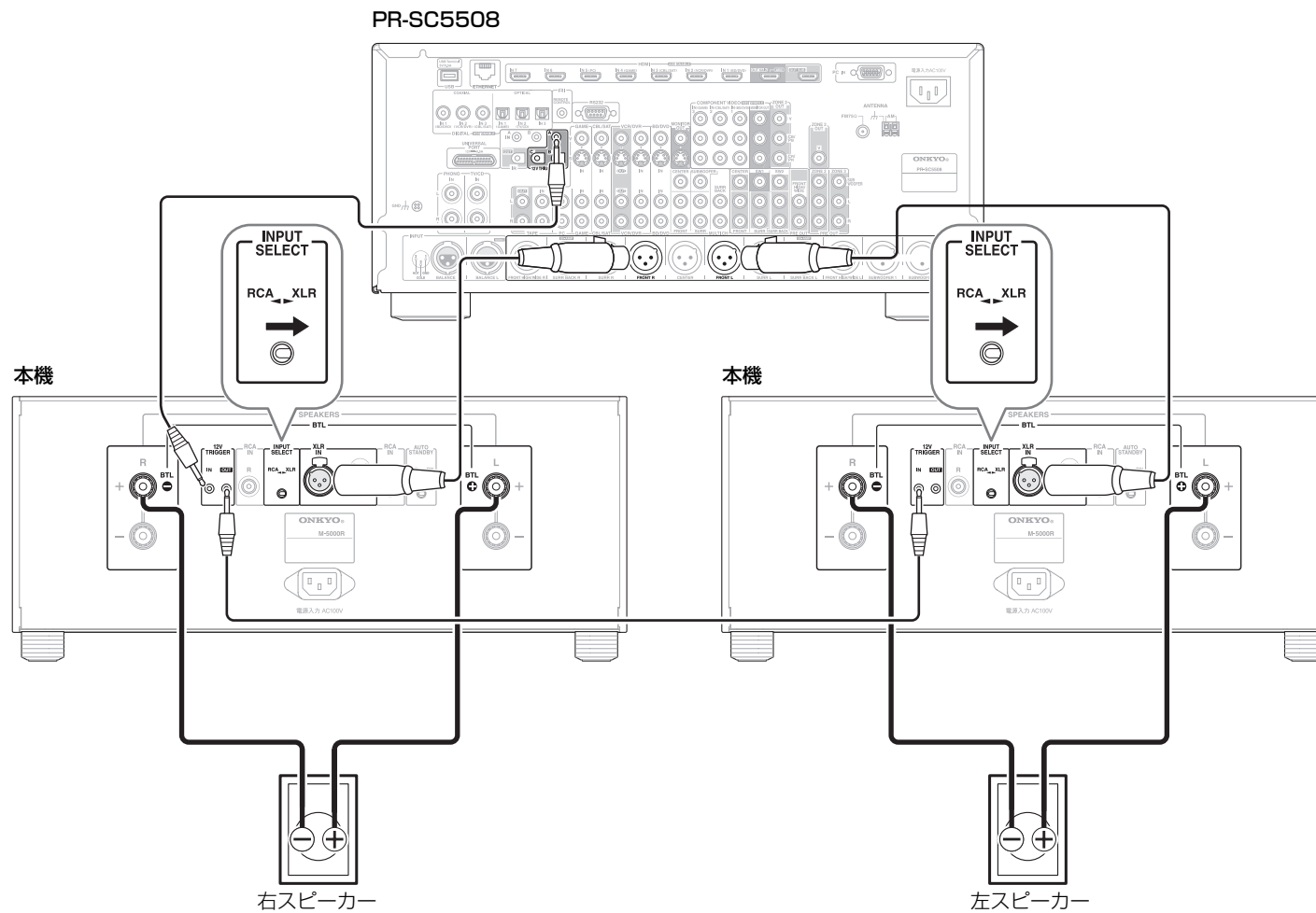
別売りのオンキヨー製プリアンプ P-3000R との接続例です。
詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ステレオ接続する

お知らせ

・**INPUT SELECT**（インプット セレクト）スイッチを **RCA** 側に切り換えてください。

お知らせ

・INPUT SELECT（インプット セレクト）スイッチを **RCA** 側に切り換えてください。

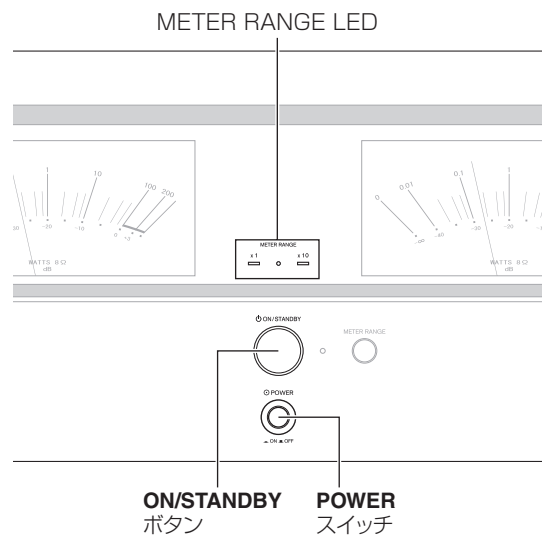
重要
・バイアンプ接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐ、ショート金具を必ず取り外してください。
・バイアンプ接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

ブリッジ接続をする

別売りのオンキヨー製 AV コントローラー PR-SC5508 との接続例です。
詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- バランス入力端子をご使用になる場合は、RCA 入力端子には接続しないでください。
- XLR ケーブルが裂けていないか確認してください。ノイズが入る原因になります。
- **INPUT**（インプット） **SELECT**（セレクト） スイッチを **XLR** 側に切り換えてください。

基本操作

本機の電源を入れる

1 **前面パネルの POWER スイッチを押して（▬）、主電源を入れる**

2 **ON/STANDBY ボタンを押す**

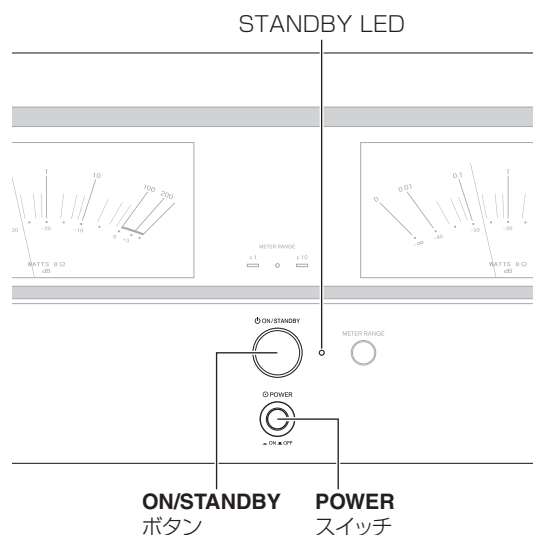
STANDBY LED が消え、METER RANGE LED が点灯します。

ヒント

・一定期間ウォーミングアップすると、本機の部品や内部温度が安定し、音が柔らかくなります。

お知らせ

・本機は電源を OFF にした際の状態を記憶し、電源を ON にすると前回電源 OFF 時の状態に戻ります。

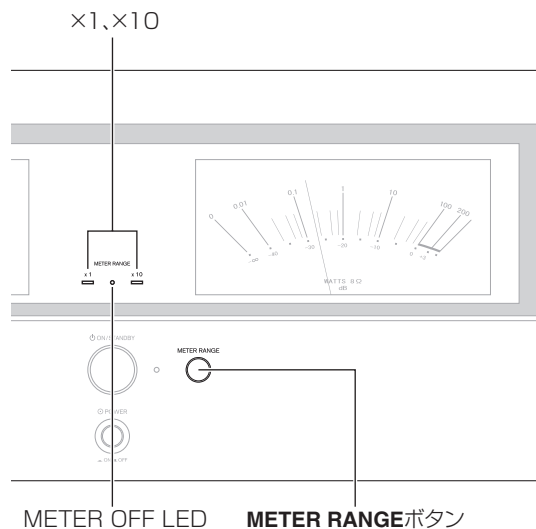
本機の電源を切る

1 **ON/STANDBY ボタンを押す**

本機がスタンバイ状態になり、STANDBY LED が点灯します。

2 **主電源を切るには POWER スイッチを押し、OFF（▬）にする**

お知らせ

・自動スタンバイ機能については、「ASb（自動スタンバイ）を設定する」をご覧ください（→ **20**）。

パワーメーターレンジを切り換える

メーターレンジを切り換えます。

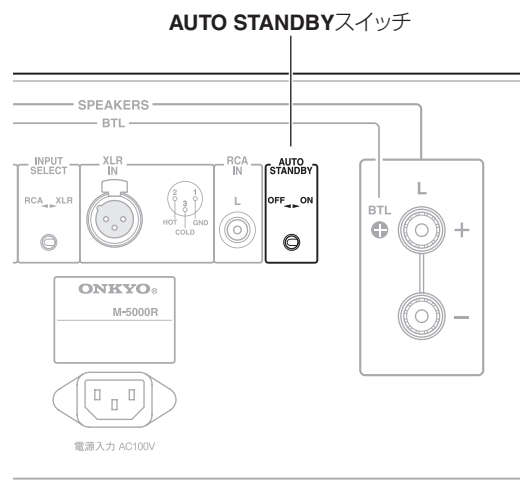
1 **METER RANGE ボタンをくり返し押して、切り換える：**

x1（初期値）、x10、オフ

METER RANGE の設定に応じて、x1、x10、METER OFF LED が点灯します。

お知らせ

・8Ω のスピーカーを接続している場合のみ、機能します。

ASb（自動スタンバイ）を設定する

ASb（Auto Standby）を ON に設定したとき、入力信号がない状態で本機を 3 時間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態になります。

1 **AUTO STANDBY スイッチを切り換えて ON/OFF を設定する**

- **ON**：
  自動スタンバイを有効にします。
- **OFF**（初期値）：
  自動スタンバイを無効にします。

一度自動スタンバイ機能でスタンバイ状態になると、信号を入力しても電源はオンになりません。**ON/STANDBY** ボタンを押して、電源をオンにしてください。

お知らせ

・ASb（Auto Standby）設定を ON に設定している場合に、自動的にスタンバイ状態になる直前の 30 秒間、METER OFF LED が点滅します。

困ったときは

まず次のようなチェックをしてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
これらの処置をしたり他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーコールセンターまでご連絡ください。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください（➔ 15）。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。
- 本機の電源が入らない場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- すべての接続を確認してください。
- 本機の STANDBY LED が点滅して、起動しない場合、本機に問題があります。スピーカーケーブルがシャーシに当たってショートしている場合があります。（+）端子に接続しているスピーカーケーブル端子シャーシ、スピーカーの（－）端子と接触していないか確認してください。
  以下の方法を試してください：
  POWER スイッチを OFF に切り換えて、すべてのスピーカーケーブルを取り外します。本機の通風孔が塞がれていないことを確認してください。本機が冷えたのを確認し、再度すべてのスピーカーケーブルを接続し、**POWER** スイッチを ON に切り換えて、**ON/STANDBY** ボタンを押してください。
  再度、本機の電源が切れる場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。
- ASb（自動スタンバイ）が作動すると、自動的にスタンバイ状態になります（➔ 20）。

音声

音声が出力されない

- スピーカーが正しく接続されているか確認してください（➔ 14）。
- すべての接続に間違いがないか確認してください（➔ 14）。
- XLR 入力で **INPUT SELECT** スイッチが XLR 側に切り換えていることを確認してください。
- 入力ソースが正しく選択されているか確認してください。
- アナログ音声ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。

音声の品質が悪い

- スピーカーケーブルが正しい極性で接続されていることを確認してください（➔ 16）。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください（➔ 14）。
- テレビなど磁気の強い場所では、音声の品質が影響を受けるばあいがあります。本機をそのような機器から離してみてください。
- 通話中の携帯電話など、強度の高い電波を発する機器が近くにある場合、ノイズを出力する場合があります。
- RCA 入力で **INPUT SELECT** スイッチが RCA 側に切り換えていることを確認してください。
- バイアンプ接続している場合、接続に間違いがないか確認してください（➔ 17）。

音声性能

- 10 ～ 30 分間ウォーミングアップすると、本機の部品や内部温度が安定し、音が柔らかくなります。
- コード留めを使ってオーディオ用ピンコード、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。

接続機器

12V トリガー機能が連動しない

- ケーブルが接続端子にしっかりと接続されていることを確認してください。

音声信号入力待ちの状態にあるときに本機の上部が熱すぎて触れることができなければ、換気を改善する必要があります。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源をオフにしてから抜いてください。

主な仕様

M-5000R

アンプ部

定格出力	
(ステレオ)	80W（8Ω、20Hz ～ 20kHz、全高調波歪率 0.05% 以下、2ch 駆動時、JEITA） 150W（4Ω、20Hz ～ 20kHz、全高調波歪率 0.05% 以下、2ch 駆動時、JEITA） 100W（8Ω、1kHz、全高調波歪率 1% 以下、2ch 駆動時、JEITA） 170W（4Ω、1kHz、全高調波歪率 1% 以下、2ch 駆動時、JEITA）
(BTL モノラル)	180W（8Ω、20Hz ～ 20kHz、全高調波歪率 0.05% 以下、1ch 駆動時、JEITA） 220W（6Ω、20Hz ～ 20kHz、全高調波歪率 0.05% 以下、1ch 駆動時、JEITA） 200W（8Ω、1kHz、全高調波歪率 1% 以下、1ch 駆動時、JEITA） 250W（6Ω、1kHz、全高調波歪率 1% 以下、1ch 駆動時、JEITA）
実用最大出力 (ステレオ)	120W（8Ω、1kHz、全高調波歪率 10% 以下、2ch 駆動時、JEITA） 200W（4Ω、1kHz、全高調波歪率 10% 以下、2ch 駆動時、JEITA）
ダイナミックパワー * * IEC-60268-short-term maximum output power.	460W（1Ω） 320W（2Ω） 245W（3Ω） 196W（4Ω） 142W（6Ω） 110W（8Ω）
総合ひずみ率	0.02 %（20Hz ～ 20kHz ハーフパワー） 0.005%（1kHz ハーフパワー）
ダンピングファクター	130（1kHz、8Ω）
入力感度 / インピーダンス（アンバランス）	RCA：700mV/10kΩ
入力感度 / インピーダンス（バランス）	XLR：1.4V/10kΩ（BTL）
周波数特性	10Hz ～ 100kHz/+0dB、－ 1dB 1W/8Ω 1Hz ～ 250kHz/+0dB、－ 3dB 1W/8Ω
SN 比	110dB（RCA、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス	RCA（ステレオ）：4Ω ～ 16Ω XLR（モノラル）：BTL 6Ω ～ 16Ω
HICC	150A

総合

電源・電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	250W
待機時消費電力	0.15W
最大外形寸法	435（幅）× 187.5（高さ）× 432.5（奥行）mm
質量	23.5kg

■音声入力

アナログ	RCA IN-L、RCA IN-R
バランス	XLR IN

■音声出力

スピーカー	L、R

■その他

12V トリガー	In1/Out1

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶ お名前
▶ お電話番号
▶ ご住所
▶ 製品名 M-5000R
▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。